

市議会産業建設委員会資料

令和2年8月11日 都市産業部 観光課

株式会社かすみがうら未来づくりカンパニーの決算報告について

事業報告① サイクリングプログラム

令和元年度についても、夏から秋にかけて天候不順な日が多かったが、交流センターを訪れる方は増加。

事業全体での利用者数は前年比105.7%となった。

法人設立当初より実施していた「ライドクエスト」については、ガイド付きのイベント版のみの開催とし、1階の「かすみマルシェ」やECサイトなどの地域製品の販売に注力。交流センターを訪れる方が気軽に利用できるレンタサイクルは、引き続き好調。

ライドクエスト

	H28	H29	H30	R1
4月		2	46	17
5月		41	38	25
6月		12	5	
7月		14	3	
8月	2	3	7	
9月	0	67	79	13
10月	10	9	25	6
11月	33	14	15	
12月	0	4	0	
1月	1	2	0	
2月	6	0	0	
3月	19	58	39	
合計	71	226	257	61

レンタサイクル

単位：人

	H28	H29	H30	R1
4月		53	127	108
5月		124	148	185
6月		29	82	61
7月		30	25	23
8月		47	50	37
9月	5	31	82	101
10月	13	47	119	73
11月	7	113	178	110
12月	17	36	14	31
1月	11	28	37	54
2月	18	22	40	64
3月	34	66	90	153
合計	105	626	992	1,000

事業報告② 地域産品を活用したレストラン「かすみキッチン」・地産地消BBQ

レストランやBBQについて、来客数は減少となったが、キッチンカーを活用したイベント等の出店など、自ら積極的に外販を行った。

3月は新型コロナウイルスの影響で平日のレストラン来客が大幅に減少。

レストラン来客者数

	H28	H29	H30	R1
4月		1,251	1,301	1,290
5月		1,537	1,722	1,607
6月		1,241	1,157	768
7月	1,016	1,418	1,300	977
8月	1,238	1,832	1,647	1,608
9月	897	1,371	1,528	1,429
10月	1,121	1,266	1,260	1,102
11月	1,010	1,259	1,376	1,479
12月	692	948	905	779
1月	849	850	805	752
2月	923	1,128	886	1,122
3月	1,215	1,207	1,351	1,048
合計	8,961	15,308	15,238	13,961

BBQ利用者数

単位：人

	H28	H29	H30	R1
4月		22	87	88
5月		120	113	88
6月		71	81	45
7月		115	141	53
8月		139	164	115
9月	8	24	59	24
10月	3	52	30	43
11月	10	25	72	22
12月	0	0	0	10
1月	0	0	0	7
2月	0	0	0	0
3月	0	0	20	17
合計	21	568	767	512

事業報告③ 地域産の加工品等を販売する「かすみマルシェ」

季節ごとに飲食メニューを変え、お土産の商品数も増加。また、ポイント決済やQR決済を導入したことで、多くのサイクリストの利用があった。また、フルーツビネガーをはじめ、2018年度に開発した商品について、マルシェの販売のほか、ECサイトにも注力。利用者数は前年比125%

マルシェ利用者数

単位：人

	H29	H30	R1
4月	—	1,235	1,611
5月	1,154	1,656	2,188
6月	729	918	1,097
7月	1,201	1,331	1,264
8月	1,025	1,308	1,776
9月	743	1,400	1,703
10月	1,070	1,449	1,340
11月	707	1,155	1,862
12月	400	751	853
1月	364	768	891
2月	457	768	1,365
3月	637	1,076	1,474
合計	8,487	13,815	17,424

KASUMI VINEGAR（飲むフルーツ酢）完熟いちご、ブルーベリー、梨の3種セット



ふくまる厳選米と佃煮・梅干（茨城県産梅 常陸乃梅）セット



令和元年度決算状況（H31.4.1～R2.3.31）

2019年度と2018年度の比較

事業全体で売上げは前年比86.8%、営業損益は△6,845,179の損失となった。

2018年度と比較すると、売上額としては減少となったが、経費が抑えられたことにより、全体の損失額は減少した。

昨年度に引き続き、かすみマルシェの売上は好調で、前年比138%となった。一方で、かすみキッチンについては、売上は増加したものの営業利益はマイナスとなっている。

2018年度決算において債務超過となったことから、令和2年3月に「第三セクター等経営健全化方針」を策定、債務超過を脱するべく今後5年間の収支目標を定めた。

単位：円

()：2018年度実績

売上高	55,697,973 (64,183,222)	サイクリング事業	1,844,119 (2,582,242)
		かすみキッチン事業	26,158,251 (25,404,421)
		かすみマルシェ事業	16,572,903 (11,976,215)
		受託事業	3,482,371 (17,790,254)
		指定管理事業	7,640,329 (6,430,090)
営業外収益	628,030 (440,496)	受取利息	133 (123)
		雑収入	627,897 (440,373)
計	56,326,003 (64,623,718)		

※決算書により消費税を除く

売上原価	18,078,250 (15,013,218)
販売費及び一般管理費	44,464,902 (57,390,725)
営業外費用	316,054 (0)
法人税等	211,000 (211,000)
計	63,070,206 (72,614,943)

当期純利益	△6,744,203 (△7,991,225)
-------	----------------------------

令和2年度事業計画

経営健全化方針に基づき、当初、令和2年度は純損益2,021千円を目標として進めていくこととしていたが、昨年度末より日を迫うごとに悪化する新型コロナウイルスの影響から、年度当初から売上げは下振れしている。

さらに、市からの要請で4/16～5/17を閉館としたことで、かすみキッチン、マルシェ、サイクリング事業が約1か月間休止となった。毎年最も売上げの多かったゴールデンウィークは売上げ実績はゼロ。

そして、施設再開後も特にかすみキッチンでは主婦層の減少が顕となり、平日の売上げは厳しい状況が続いている。

一方で、今年度は歩崎棧橋や古民家江口屋など、新たな付属施設を管理運営することとなった。これらを活用し来訪客の滞在期間の延長とリピート化につながるよう、体験プログラム等の拡充に努め、これまでの事業への波及効果と稼げる地域づくりにつなげていくこととする。

コロナ禍の中で試行錯誤しつつ、経営への影響を最小限に抑えることに努めることとして、右記の計画については、経営健全化方針の収支計画から若干の下方修正を行っている。

単位：円

事業売上	60,723,625	サイクリング事業	1,150,541
		かすみキッチン事業	15,393,960
		かすみマルシェ事業	13,137,000
		受託事業 ・古民家プロモーション90万円 ・歩崎アクションプランプロモーション200万円 ・域外プロモーション 55万円 ・新商品制作業務 165万円 ・広域レンタサイクル10万円 ・果樹観光協会案内業務10万円	5,300,000
		指定管理事業	25,742,124
営業外収益	4,000,000	受取利息・雑収入	600,000
		持続化給付金等	3,400,000
計	64,723,625		

売上原価	12,244,595
販売費及び一般管理費	50,711,192
営業外費用	0
法人税等	211,000
計	63,166,787

※消費税分を除く

当期純利益	1,556,838
-------	-----------

経営健全化方針に基づく取組状況（令和元年度）

◆第三セクターの概要

法人名 株式会社かすみがうら未来づくりカンパニー
代表者名 代表取締役 今野浩紹
所在地 茨城県かすみがうら市大和田562
資本金 20,000 千円（かすみがうら市出資額5,000千円 出資割合25%）

◆経営健全化方針を策定した理由

総務省が策定した「第三セクター等の経営健全化等に関する指針」における、抜本的改革を含む経営健全化に取り組むべき対象とする第三セクター等の基準において、当該法人が「実質的に債務超過であるもの」に該当したため、経営健全化方針を策定することとした。

当該法人は、平成30年度決算において債務超過額が6,271,004円発生した。

◆財政的リスクの状況

	平成30年度 決算(※1)	令和元年度 決算(※2)	目標達成年度 (令和6年度)※3
債務超過額（千円）	6,271千円	13,015千円	0千円

※1：経営健全化方針の策定が必要となった決算年度の数値を記載

※2：該当する経営健全化方針の策定要件に関して、直近の決算額を、順次記載していく。

※3：当該団体が目標とする財政的リスク解消の達成年度の見通し及び数値を記載。なお、経営健全化方針策定通知においては、今後5年間で経営健全化方針の策定要件（財政的リスク）を解消することを目指して取組を記載することとしていることに留意。

◆主な取組状況（令和2年3月現在）

【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

- ・赤字要因のレストラン経営について、今後の方針や改善策を関係者で検討を行った。
- ・経営状況の分析やキャッシュフローを何度もシミュレーションするなどして、精度の高い将来的な経営状況の展望を検討した。
- ・引き続き、人件費等を含めた必要経費のスリム化を図り、安定した売上金額の確保に努めた。
- ・取締役会において具体的な経営方針の見直しや今後の経営健全化の方策などについて協議を行った。
- ・新たに「交流センター」の附属施設として歩崎棧橋及び古民家江口屋が新設されることに伴い、指定管理に係る事項について協議するとともに、適正な指定管理料の上限額の設定を要請した。

【地方公共団体による財政的なリスクへの対処のための対応】

- ・会社経営に対して積極的な関与や定期的なチェックを行っていく体制の構築を検討した。
- ・交流センター周辺の観光関連施設が充実することを見込み、一帯的な利活用方策について検討した。
- ・これらの施設が円滑に施設運営できるよう、必要な人件費相当額を精査するなどして指定管理料の見直しを検討した。
- ・当該法人の透明性の確保と経営の健全化を図るため、第三セクター等経営健全化方針を策定した。

○法人の財務状況

【貸借対照表から】

(単位：千円)

項目	平成30年度決算 ※4	令和元年度 ※5
資産総額	20,537	23,118
(うち現預金)	12,970	14,496
(うち売上債権)	934	2,970
(うち棚卸資産)	1,394	1,822
(うち前払費用)		3
(うち固定資産)	5,239	3,827
負債総額	26,808	36,133
(うち当該地方公共 団体からの借入金)		
純資産総額	△6,271	△13,015

【損益計算書から】

(単位：千円)

項目	平成30年度決算 4	令和元年度 5
経常収益	49,170	37,619
経常費用	57,390	44,464
経常損益	△8,220	△6,845
営業外損益	440	628
営業外費用		△316
当期純損益	△7,991	△6,744

※4：経営健全化方針の策定が必要となった決算年度の数値を記載

※5：直近の決算額を、順次記載していく。